

APrIGF マルチステークホルダー運営グループ(MSG)会合報告

開催形態:オンライン

開催日時:2025年9月17日(水)04:00- 05:00 UTC

議題

- 議長による開会の挨拶
 - APrIGF 2025の今後の進捗状況について
- 現地ホスト(ネパール)からの最新情報
- 事務局からの最新情報
 - 2026-2028年度の新MSG議長および副議長発表
- MSG各委員会からの進捗報告
 - イベント委員会(EC)
 - プログラム委員会(PC)
 - フェローシップ委員会(FC)
 - APrIGF WSIS+20作業部会
- その他
 - MSG定例会議(隔週開催)の次回開催予定:2025年10月1日

前回会議のアクションアイテム

- 事務局より送付された出席調査への記入をMSGメンバーに再通知【済】
- 現地ホストより参加者向けホテル割引コードに関する更新待ち【済】
- グリーンルーム以外に要人用VIPルームの確保可否を現地ホストが確認中【済】
- 現地ホストは、グリーンルーム以外に要人用VIPルームが利用可能か確認【済】
- PCは、閉会全体会議(closing plenary)「デジタル格差の解消:アジア太平洋地域における包括的かつ持続可能な接続性戦略」に太平洋地域から参加する講演者候補について、MSGメンバーからの提案・推薦を募集【済】
 - 事務局は閉会全体会議での講演者としてSarai Tevita氏に打診済み

1. 開催形態変更について

安全上の懸念から、2025年ネパール開催のAPrIGFイベントをオンライン形式で実施することを確認。開催国の認知を維持しつつ、現地委員会の努力を評価する議論が行われた。ネパールの2026年開催状況は今後の選挙により不透明だが、政治的・運営面での進展は順調。事務局はMSGの新リーダーシップポストを発表。会議では完全オンライン開催となるAPrIGF 2025の準備(プログラム調

整・セッション主催者との連絡)に加え、フェローへの財政的影響への懸念、タイムゾーン・運営面での追加協議の必要性が議論された。

2. APrIGF 2025 オンライン企画会議

本会議では、継続的な不確実性と過去のハイブリッド会議の経験を踏まえ、オンライン開催が有力視されるAPrIGF 2025の準備状況が議論された。シェリルは、ECが完全オンライン形式への適応準備が整っていることを強調し、過去のオンライン会議やハイブリッディベントから得られた教訓(休憩の頻度増加や不適切な行動の厳格な管理の必要性など)を指摘した。また、次回の合同委員会会議(22日UTC 05:00 開催予定)が極めて重要であり、ベアが主導、カスンが補佐共同リーダーを務めることが言及された。

3. APrIGFオンラインプログラム移行

プログラム委員会は、APrIGFの完全オンラインプログラム移行について協議した。これには全体プログラムの調整案やセッション主催者との連絡調整が含まれる。開会・閉会全体会議の招待状送付を計画しており、現地ホストが講演者の参加可否を再評価・確認する。委員会はDay 0プログラムについてもオンライン実施の準備を進めているが、最終決定にはフェローシップおよびYIGF側の意見を求める方針。